

事務事業 No./名称	□サービス部門 教総-17		保健事務				
主管課	学務課	関連課	市民健康課				
分野名	学校教育						
目標 (目標値)	児童生徒の健康の保持増進を図る						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳) ・対象者数は5月1日児童生徒数+就学時検診対象者		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数	12,524人	12,425人	12,186人			
事業費(千円)	58,051千円	58,508千円	58,027千円				
運営資源状況	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	58,051千円	58,508千円	58,027千円			
	人員配置数	1.6人	1.6人	1.0人			
	人件費(千円)	13,975千円	14,637千円	9,403千円			
	協働のパートナー	鎌倉市医師会・鎌倉市歯科医師会・鎌倉市薬剤師会	鎌倉市医師会・鎌倉市歯科医師会・鎌倉市薬剤師会	鎌倉市医師会・鎌倉市歯科医師会・鎌倉市薬剤師会			
	総事業費(千円)	72,026千円	73,145千円	67,430千円			
事務事業運営経費	市民1人当りの経費(円)	407円	414円	382円			
	対象者1人当りの経費(円)	5,751円	5,887円	5,533円			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
内部事務処理マニュアル(定期健康診断手引き)の修正	◎	目標値	毎年修正	毎年修正	毎年修正	毎年修正	毎年修正
		実績値	修正済	修正済			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
保健事務	58,051千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	児童生徒の健康の確保・増進を図るため、各種検診や保健指導などの業務を実施。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の個人情報を取り扱うため、管理には十分注意を要する。 保健業務で密接な関わりをもつ養護教諭との連携・協議が必要である。 保健事務を円滑に執行するためには、学校医を委嘱している医師会、歯科医師会及び薬剤師会の連携及び協力体制を強化する必要がある。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と個人情報の取り扱いに関し、管理を徹底するよう働きかけた。 養護教諭の代表と協議等を行い、保健業務の効率的な運営が図れるよう事務改善に努めた。 医師会については、前年度に引き続き代表理事と検診業務や就学時健康診断業務等について意見交換等協議を行い業務の対応及び見直しを図った。また、歯科医師会及び薬剤師会とは、代表と協議を重ね、効率的な事務執行に努めた。 			
未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> 連絡協議、契約の場を利用して、関係機関と個人情報の取り扱いについて、慎重に取り扱うよう周知しているところであるが、今後とも徹底していくことが必要である。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取扱いについては、今後とも管理を徹底するよう対応していく。 養護教諭とは、あらゆる機会を捉えて協議や説明等を実施し、効率的な業務運営を図っていく。 社会環境の変化に伴い学校保健における医師会、歯科医師会及び薬剤師会と緊密な連携がより必要となってきたため、今後とも意見交換等を実施し業務の効率化等を図ってきたい。 			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ A	※ □事業完了	課長名 山田 幸文

